

## 東シベリア・スントアルハヤタ山塊の氷河変動の特徴に関する考察

大畑哲夫<sup>1</sup>、門田勤<sup>2</sup>、白川龍生<sup>3</sup>、張 勇<sup>1</sup>

<sup>1</sup>国立極地研究所, <sup>2</sup>故人 (元・海洋研究開発機構), <sup>3</sup>北見工業大学

### **Consideration on Characteristics of Glacier variation in the Suntar-Khayata Mountain Range in Eastern Siberia**

Tetsuo Ohata<sup>1</sup>, Tsutomu Kadota<sup>2</sup>, Tatsuo Shirakawa<sup>3</sup> and Yong Zhang<sup>1</sup>

<sup>1</sup>*National Institute of Polar Research*, <sup>2</sup>*Deceased (Former affiliation: Japan Agency for Marine-Earth  
Science and Technology)*, <sup>3</sup>*Kitami Institute of Technology*

This paper will present a consideration on the glacier variation in the Suntar-Khayata Mountain Range in East Siberia, based on new data from the GRENE Project (2011-15), past studies in this region, and other studies in the Arctic Region. The characteristics, difference from other Arctic glaciers, and also their cause will be discussed. This study has been made between the collaboration of JAMSTEC and GRENE Arctic Research Program.

GRENE計画(2011~2015年)で東シベリア東北部のスントアルハヤタ山塊の氷河調査および解析研究を行ってきた。この地域の氷河量は他の北極地域に比べて多いわけではないが、北極地域全体の氷河変動や質量収支の様相を知る上では欠かせない、空白地域と言われている地域である。またその情報は、当該地域の気候変動特性に関する情報となる。

4年間にわたり夏期の現地調査(2011~2014)を行い、氷河の現状を測定に、過去に比べ相当縮小していることが分かってきた。またモレーンなどからより長い過去の変化を解析してきた。さらに過去の観測結果との比較、そして、新たに氷河変動シミュレーションを実施してきた。

今まで得られて来た解析結果とともに、北極地域に存在する他氷河の報告と比較しながらスントアルハヤタ山塊の氷河の特徴に関する次の事項に関する発表を行う。

- (1) この地域の氷河の縮退傾向の特徴。
- (2) この地域の氷河変動と他地域の氷河変動の比較と差異。
- (3) この地域に特徴があるとすれば、それは何が原因なのか？

なお、本研究は JAMSTEC および GRENE 北極研究事業の共同研究として行われたものである。